

第64回 新庁舎建設庁内検討委員会 第16回 公共施設等総合管理計画策定推進本部	日 時	平成29年12月5日(火) 9:21~9:35	場 所	庁 議 室
出 席 者	委員長：西岡市長 副委員長：上原副市長 小泉副市長、山本教育長、天野企画財政部長兼庁舎建設等担当部長、中谷総務部長、藤本市民部長、柿崎環境部長、佐久間福祉保健部長、大澤子ども家庭部長兼児童青少年担当部長、東山都市整備部長、北村まちづくり担当部長、川合学校教育部長、西田生涯学習部長、加藤議会事務局長			
欠 席 者	なし			
事 務 局	高橋庁舎建設等担当課長、今井企画調整担当課長、渡辺主査、岡崎主任 小野ごみ対策課長			
議 題	1 庁舎建設予定地活用の検討状況について 2 庁舎等執務環境調査の進捗状況について 3 庁舎建設予定地活用市民ワークショップについて 4 新庁舎と(仮称)新福祉会館の複合化によるメリットについて 5 その他			
(進行：西岡市長)				
(西岡市長が以下の要旨で発言した。)				
○ 「第64回新庁舎建設庁内検討委員会」及び「第16回公共施設等総合管理計画策定推進本部」を開催する。 本日の議題は、「庁舎建設予定地活用の検討状況について」、「庁舎等執務環境調査の進捗状況について」、「庁舎建設予定地活用市民ワークショップについて」及び「新庁舎と(仮称)新福祉会館の複合化によるメリットについて」である。 議題1について、事務局から説明を求める。				
議題1 庁舎建設予定地活用の検討状況について (高橋庁舎建設等担当課長が以下の要旨で説明を行った。)				
○ 庁舎建設予定地活用の検討状況についてである。 前回、配置案の比較表をお示ししたが、引続き、検討し比較表を作成した。1点目の広場の規模は前回比較表にも記載したが、2点目に広場の活用、3点目に残地面積の活用を記載したことから記載している。 4点目の施工性、5点目の建設コストの比較については記載のとおりである。				
【関連質疑】 なし				
議題2 庁舎等執務環境調査の進捗状況について (高橋庁舎建設等担当課長が以下の要旨で説明を行った。)				
○ 庁舎等執務環境調査の進捗状況についてである。 資料は、この間実施した各種調査の概要である。調査委託報告(案)については、今後お示ししたい。				
【関連質疑】 ○ 電子化に伴う文書量減量の見込み、新庁舎建設に向けた文書量の見込みはどのようになるか。 → 本調査においては、現在の文書量を把握したうえで、新庁舎建設に向けた文書削減目標を見込むものであり、今後、調査に基づく適正面積の算定に当たって文書量を見込むことになる。具体的文書削減の取組みについては、文書管理機能検討部会からの報告によると、総務課においてファイル管理表の見直しを行うとともに、ファイリングシステムの再構築を検討している。文書の電子化については、各種システム改修を伴うものであり、IT推進本部において検討を進めることになる。				

議題3 庁舎建設予定地活用市民ワークショップについて

(今井企画調整担当課長が以下の要旨で説明を行った。)

- 新庁舎等建設計画調査委託における課題、検討結果等を明確かつ適切に市民等に情報提供、情報共有するため、全3回「庁舎建設予定地活用市民ワークショップ」を実施した。

第1回は平成29年10月1日に「新庁舎・新福祉会館って何だろう？」をテーマに、第2回は平成29年10月21日に「新庁舎・新福祉会館で何をしたい？」をテーマに、第3回は平成29年11月18日に「新庁舎・新福祉会館をどう使う？」をテーマにグループディスカッションを行った。

全体を通じて、落ち着いた雰囲気、見通しの良さ及び空間としての広がりイメージした敷地活用並びに新庁舎と(仮称)新福祉会館に一定のつながりや機能的な連携を期待されているように受け止めた。

施設配置という点では、5グループ中4グループが新庁舎と(仮称)新福祉会館を複合的に配置する案が示された。

今後は、ワークショップによって得られた成果も踏まえつつ、新庁舎建設庁内検討委員会や同調整部会等と調整しながら、単体建設・複合建設等の判断を行っていきたい。

【関連質疑】

- 各回の参加者数は何人か。

→ 第1回は21人、第2回は17人、第3回は18人である。

議題4 新庁舎と(仮称)新福祉会館の複合化によるメリットについて

(今井企画調整担当課長が以下の要旨で説明を行った。)

- 機能に関するメリットでは、新庁舎建設基本計画や都市計画マスタープランとの整合を意識した整理を行っており、こうした方向性を留意しつつメリットを抽出していくことが望ましいと考えている。管理に関するメリット及び設備等縮減によるメリットは一般論として整理したものである。レイアウトイメージは、4案それぞれの特徴、複合の効果に着目して現段階で整理できる項目を記載している。

今後、更に検討を進め、(仮称)新福祉会館の検討の進展と合わせ、受託者とも調整を進めていく予定である。

【関連質疑】

- 新庁舎と(仮称)新福祉会館は複合施設が望ましいということか。

→ 現時点では、市民ワークショップの成果や「新庁舎と(仮称)新福祉会館の複合化によるメリットについて」でお示ししているとおり、複合化に優位性があり、市民の皆さんとはイメージを共有できたと認識している。今後、新庁舎と(仮称)新福祉会館との機能連携を整理し、示していく必要があり、(仮称)新福祉会館の検討と合わせ更に検討を行う必要があると考えている。

— 以上で終了 —